

変えよう!
兵庫県政

憲法が輝く兵庫県政をつくる会
第13号 2013年5月8日
メール: Info@kenpo-kensei.com
HP・ブログ・ツイッター
「兵庫・憲法県政の会」検索! 【部内資料】



田中耕太郎さんといっしょに 「人にやさしい兵庫」の実現を

「兵庫・憲法県政の会」は4月26日、神戸文化ホールでつどいを開き、県内各地から1400人が参加。7月の県知事選挙の勝利にむけて決意を固めました。

「つどい」は、県政への要求アピールで舞台と参加者が一体に。「子どもの医療費無料化、子育て支援充実の県政に」（新日本婦人の会）。

「国民皆保険を守り、地域医療を充実する知事の誕生を」（民医連、保険医協会）。「自立、自助で国や自治体の責任を放棄する政治の転換を兵庫から」（年金者組合）。

関電神戸行動からかけつけた青年は、会場と「原発いらない、再稼働反対」コール。

また、借上住宅協議会会長の安田秋成さんが「震災の教訓が大事」といながら、なぜ、借り上げ住宅から被災者を追い出すのか。住宅を移転せよというのには、高齢者に早く死ぬという同じ。希望者全員の継続入居へ、人にやさしい知事

を誕生させよう」と力説しました。

横断幕やタペストリーを持った百数十人が待つ中、知事候補の田中耕太郎さんが大声援と拍手で登場しました。

田中さんは「県民の利益を守り、国のまちがった政治にも影響を与えるたたいとなるよう全力をつくす」と決意を表明。消費税増税ノー、原発再稼働反対の発信、高校通学区拡大やこども病院の移転の中止、被災者への公的支援の拡充、再生可能エネルギーの推進、農林漁業の振興、福祉と子育て支援の充実などを訴えました。

最後に、「憲法が輝く県政をめざす私たちこそ、憲法の守り手でもあることを訴え、勝利をめざそう」と訴えました。

医師の武村義人代表幹事、弁護士松山秀樹代表幹事が「憲法がくらしに生きる兵庫」を呼びかけ、日本共産党の金田峰生さん、兵庫連会長の磯谷吉夫さん、兵庫労連議長の津川知久さんも訴えました。

最後に、石川康宏代表幹事が、5月26日の全県オンライン・アピールデーのとりくみなどを呼びかけました。

寄せられた一言メッセージ

88歳の安田さんからゼロこねつとの若者までが一つとなった、すてきな集会。県政変えよう! コータローと変えよう! 兵庫県民でよかたと言えよう! 兵庫県のためにがんばりましょう。県民に幸せ運ぶオレんじの風を吹かせましょう。憲法が暮らしの中に輝く豊かな社会づくりのため全力をあげよう!!

のり(憲)のり(法)

コラム

兵庫連青年部協議会の仲間たちと共に、4月27日深夜発、29日早朝帰神の日程で、福島原発警戒区域を訪れました。被災地支援の思いを込めて福島県浪江町に桜の木を届けることも、被災地の今を視察するため、桜の木は、青年部員たちが被災地支援の物産展でカンパを呼びかけ購入したもので、物産展での収益も被災地支援募金として送金しました。

受け入れ先の福島県相双民商では、警戒区域の浪江町にある会長宅に桜の木を植えるため、立ち入り許可を取ってくれました。みんなで協力して植えた後は、浪江町の状況を見て回ることに。

横転した車、横たわる船、折れた電柱、ガレキに廃墟とまるで2年前から時間が止まったかのような光景に言葉を失いました。福島原発一号機建屋がうつすらと望める海岸に立ち、脱原発・被災地復興への想いを一層強くしました。

参加した業者青年からは「貴重な体験をさせてもらった。これを見たら頑張るしかない」「原発のせいで震災の後処理がすすんでいない。原発は早くなくさないといけない」など感想が語られました。桜の木の成長と被災地の状況を見るために来年も再来年も訪れることを約束しました。(K)



「もっと被災者に寄り添う兵庫県政を」 淡路島を訪問して

代表幹事 田中耕太郎

4月28日、淡路島の地震被害の確認に行きました。

最初に、5月オープンの県立淡路医療センターへ。塀から10数メートル先が海で、北側は06年の台風で氾濫しそうな川。災害対応の立地とはとても思えません。建物周辺の浸水防止壁の亀裂は補修済みでしたが、写真で確認しました。知事の「耐震テストできた」発言には唖然とします。



次に、瓦崩落など被害が大きい地域に行きました。地元の人にお話をお聞きしたり、市職員が損壊家屋の調査をしているところにも遭遇。「危険」や「注意」の赤や黄色の張り紙のある家屋が並ぶ路地を通ると18年前の阪神・淡路大震災が思い起こされました。

続いて訪れた淡路市防災あんしんセンターも海岸に近いところで、隣の広い空き地は「兵庫県企業立地課・分譲中」の看板も見えます。その駐車場の一部に長さ30メートルぐらい液状化で水と砂が噴出したところがあります。この土地は兵庫県が埋め立て事業を行い、淡路市が買い取って行政拠点にしていますが、11年の台風による洪水被害時まわりの道路が冠水し、役割を果たせませんでした。

民商会員でもある西浦の民宿をたずねると、「市役所の人、自宅は見ても、客室・浴室などの民宿のほうは見もしない」と不安顔。

浴室はタイルがはがれ、かなりの補修工事が必要です。この民宿は、95年の大震災時にも大きな被害を受け、その借入金も残っています。GWは予約客で一杯だったのに全部キャンセルせざるを得ませんでした。

「水道がこわれ、宿泊客も断っている」「地震保険も5%しか出ない」と、悔しさとともに、再開への強い気持ちが伝わってきました。兵庫県はやっと一部損壊で5万円の見舞金を出すとしましたが、もっと被災者に寄り添う政治が必要だと痛感しました。



「丹波の会」総会、選挙本番へ活動を具体化

4月27日、「憲法県政丹波の会」の再開総会が開催され、30余名が参加しました。最初に、中西代表幹事が「あす4月28日は、沖繩にとつて屈辱の日。憲法を暮らしに生かす県政を実現しましょう」とあいさつ。次に、西脇事務局次長から経過報告、規約改正提案、当面の行動提起があり、全員の拍手で承認されました。また、民商、年金者組合、革新懇の各代表から決意表明も。

「明石の会」総会に65人

「明石の会」は4月13日、総会を開催し65人が参加しました。「『ウイラブ兵庫』の普及と学習のつどいを無数に」などの行動提起を確認するとともに、参加団体に事務局の強化も行いました。討論では、「今日の淡路地震で、改めて県立こども病院のボートアイランド移転は危険だと明らかになった」、「県知事が本部長の『債権回

最後に、憲法県政実現コールを唱和し再開総会を終えました。田中耕太郎さんを県知事に決意があふれた総会になりました。

収めたい県政の象徴だ」などの意見が相次ぎました。総会後、兵庫労連の津川議長が講演を行い、維新の会の動き、井戸知事の発言も紹介しながら、人にやさしい、憲法が暮らしにいかす県政への転換をよびかけました。



「人にやさしい兵庫」の実現へ 県内一斉オレンジ・アピールデー

5月26日

駅で、商店街で、スーパー前でリーフレットを配り「人にやさしい兵庫」をアピールのぼり、プラスターをかがげ、宣伝カーも走らせ、全県で「オレンジの風」を吹かせよう



自己紹介のメニュー
(過去の録画も見れます)

YouTube
(記者会見の様相などを録画)

ツイッターのフォロワーに!
メールマガジンの登録は「どうして」

ブログ(会や各地の運動を紹介)

石川代表幹事のブログ

メールマガジンの登録
ツイッターのフォロワーに